

平成30年度 第1回鱈ヶ沢町総合教育会議 会議録

日時：平成31年2月21日（木）

13:30～14:30

場所：町役場2階 会議室

《出席者》

構成員：5人

町長（平田）、教育委員（鶴田、工藤、山崎）、教育長（阿彦）

（欠席者：教育委員（安田））

事務局：8人

総務課長（佐藤）、総務課副参事（中井）、教育課長（小笠原）、教育課副参事（寺沢）

学校教育班長（澁谷）、社会教育班長（長谷川）、公民館副館長（平田）、

給食センター所長（清野）

【次第】

- 1 開会
- 2 町長挨拶
- 3 協議案件
 - (1) 鱈ヶ沢町の教育について
 - (2) その他
- 4 閉会

【配布資料】

- ・ 次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 鱈ヶ沢町総合教育会議設置要綱
- ・ 資料1 鱈ヶ沢町の教育について
- ・ 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱

(議事録)

(13:30 会議開始)

1 開会

総務課副参事

只今から、鱈ヶ沢町総合教育会議を開催いたします。

はじめに、町長より挨拶をお願いいたします。

2 町長挨拶

町長

皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。また教育委員の皆様におかれましては、日頃から当町の教育行政の充実と発展に多大なる御尽力を賜り、心から敬意を表しますとともに、深く感謝申し上げます。

さて、本日の総合教育会議でございますが、平成27年4月に地方教育行政に関する法律が改正されたことに伴い設置されたものであり、町長と教育委員会が対等な執行機関として、両者の協議、調整の場を設けることにより、地域の教育課題や歴史像を共有し、教育行政の推進を図ることとなっております。

私が町長に就任してから、少子高齢化の中で少ない子ども達を、いかに大切に育てていくかということで教育環境の充実に努めてまいりたいと思っております。今般、教育委員会からの報告によれば、鱈ヶ沢の子ども達の学力は、低下している状況にあると聞いております。これは非常に大きな問題であると思っております。子ども達の学力向上は、やはり学校教育に負うところが大きいということで、教育現場で先生方にも一生懸命頑張っていたいただかなければならない。当然、教育委員会の委員の皆様にも、このことについては徹底して取り組んでいただきたいと考えております。鱈ヶ沢町の将来を担う子ども達であるので、学力を向上させなければならぬし、心身ともに丈夫で逞しい子ども達を育てていかなければならない。また、鱈ヶ沢町に誇りと自信を持てる、そういった鱈ヶ沢町を愛する子ども達を育てなければならぬということで、ふるさと教育にも徹底して取り組んでいかなければならないと思っております。

今、地域で子どもを育てると言われて久しくないですけれども、鱈ヶ沢町も本格的にコミュニティ・スクールに取り組んでまいります。去年から県の補助を使いながら進めておりますけれども、今年はさらに取り組んでいくということになっております。一方で、鱈ヶ沢町の社会教育がなかなか前に進まないというのが実情であります。昔、鱈ヶ沢町も様々社会教育に取り組んできましたけれども、研修会、講習会だけで済む話ではなく、社会教育の根本は人をつくっていく。要は、まちづくりの根本は人づくりだと私は思っておりますので、この社会教育をこれまでとは違った観点から考えていかなければならないと思っております。そのためには、町、教育委員会、学校、地域がスクラム

を組んでいくことが大事だと思いますので、今日はそれぞれの立場から忌憚のない御意見を頂きたいと思っております。その御意見を基に、今後の教育行政に町も共に取り組んでまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

3 協議案件

総務課副参事

早速、ここから協議に入りたいと思いますが、まずは、この総合教育会議について少しの時間、御説明申し上げます。お手元に配布してあります「鱒ヶ沢町総合教育会議設置要綱」にも記載されておりますが、この会議は平成27年から「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき設置いたしております。この会議では、

- ①町の教育、学術、文化の振興に関する総合的な施策の大綱を策定すること。
- ②教育を行うための諸条件の整備、地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図るための重点的に講ずる施策に関すること。
- ③児童、生徒等の生命や身体に被害が生じ、又は被害が生ずるおそれがあると見込まれる場合などの緊急の場合に講ずる措置に関すること。

以上が所掌事務となっております。施策の大綱につきましては、既にお手元に配布してありますので、お時間のある時にお読みいただきたいと思っております。

また、この会議は、公開を原則としておりますので、議事録を作成し、ホームページで公表することといたしております。

以上、簡単ではございますが、この会議の概要について説明を終わります。

それでは、これより協議に入りたいと思っております。会議の進行につきましては、会議設置要綱第4条の規定により、「町長が会議の議長となる」とありますので、以降は町長をお願いいたします。

(1) 鱒ヶ沢町の教育について

町長

それでは、会議に入りますがスムーズな進行に御協力よろしく願いいたします。

まずは、鱒ヶ沢町の教育について教育課より説明をお願いします。

教育長

まず、鱒ヶ沢町教育基本方針の策定ですけれども、平成27年に出された「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」が大きな基となっております。基本となる考え方、理念を土台にして基本方針を作りあげてあります。また、教育委員会では教育要覧を作ります。社会教育では鱒ヶ沢町社会教育計画が作られてあります。これらも基にして作られたということをお説明して、心置きしていただければと思います。

基本の目標ですけれども、先程町長がおっしゃったとおり、大事なものは人づくりであること。そして、郷土に誇りを持ち、多様性を尊重して、想像力豊かで、あたらしい時

代を主体的に切り拓く人づくり、これが一番の目標となります。その目標のあとに、学校教育、社会教育がそれぞれ大きな柱建てをしながら、基本目標に到達するように、人づくり、まちづくりに繋がるようにと考えておりました。

学校教育のグランドデザインです。基本的なことを視覚的に分かりやすいようにまとめたものです。1から6までの6つの柱を基に学校教育を進めていくということであり

「1 確かな学力」ですが、先程ありました児童・生徒の学力は、若干下がっております。具体的な数字で言いますと、毎年小学校5年生、中学校2年生が、青森県全体で学力状況調査を行っております。点数化されて、市町村単位、各教育事務所単位で公表されております。小学校5年生は県全体の平均と比べますと、県平均が61ポイント、鱒ヶ沢町が60。いくらと若干低めです。もっと大変なのは、西北全体だと県平均よりも1ポイント高く、つがる市だともっと高いということで、最低限県平均、西北平均まで持っていきたいと考えております。中学校ですと、鱒ヶ沢町の平均が46ポイントです。県平均が53ということで、7ポイントのひらきがあります。まずはそこを近づけるということを昨年度から進めているところであります。その他に学校ですから、わかる授業が大事であるということで、先生方の力をつけること、授業力を高めることを進めていきたいと考えております。また、重点としてICTを活用した授業とありますけれども、やはり子どもですので、機械を使った勉強というものに大変意欲をもって取り組みますので、うまく学力を高めていく方策を考えていきたいと思っております。あと、少人数学習・T・T（チームティーチング）が必要かと思っております。舞戸小学校ですけれども、昨年に比べ、今年度若干成績が上がっております。少人数学習の取組みを進めた結果が表れたというところです。

「2 心の教育」です。道徳教育が教科として位置付けられていることもありますし、鱒ヶ沢町では昔から朝の読書活動に取り組んでありますので、大事にしながらさらに進めていきたい、それから、福祉活動を含めた体験活動を重視して、これを通して心を育てていく、いじめがない、不登校がないという様にしたいと思っております。

「3 たくましい体」です。これは体力測定を行っておりました。これを見ると、青森県の子どもたちは、体格は全国で一番体格の良い子ども達です。鱒ヶ沢の子ども達を見ますと、中学校男子で若干ではありますが、肥満傾向の割合が高めであるというマイナス部分がありますので、そこを改善していかなければならない。体力的には、小学校5年と中学校2年の実施録があるのですが、小5の男子、中2の女子が全国平均を下回るような運動能力、体力です。小5女子、中2男子は全国平均を超えています。総じてやや全国平均より下回ることが見られますので、学校体育などで補充していくことで考えておりました。あと、特徴的なものとして、鱒ヶ沢町では親子プロジェクトを行っておりますけれども、自分の健康に意識をもって生活を送ろうという健康教育をさらに進めていきたい。さらに給食では地場食材を使って食育指導を進めていくことを考え

ておりました。

「4 国際化・情報化」です。ありがたいことに各学校に1人ずつALTを配置していただきました。しかしながら、各学校でまだまだ活用しきれていないので、この活用をもっとうまくやりたいなと思います。情報化ということでは、ICTを活用して子どもたちの将来につながるプレゼン能力の向上を図っていききたい。そして大事な点です。ふるさと学習の充実。ふるさとに自信を持てる、ふるさとに誇りを持てる子を、ふるさと学習を通して育てていききたいと思っておりました。

「5 キャリア教育」です。よくキャリア教育と聞きますが、単純な職業訓練とかではなく、一番大事なのは自分がどういう者になりたいかという将来の自分に思いを馳せるような、そういう教育がキャリア教育で一番大事だと思っております。夢や希望をちゃんと持って、将来自分はこうなりたいという将来像を持った子どもにしていききたい。これに併せて中学生では職場体験を行い、いろいろな職業に関心を持ち、働くことの意義を理解させていききたいと思います。

「6 教育環境の整備」です。様々な学校教育の環境を整備していききたいと思います。その中で、コミュニティ・スクールへの移行ということで、これは社会教育と深く関係があるところですが、そういう環境づくりを進めていききたいというのが、学校教育のグランドデザインであります。

社会教育は5つの柱です。「1 生涯学習、2 生涯スポーツ、3 学校・家庭・地域、4 文化芸術、5 文化財保護」ということで進めて参りたいと思います。

「1 生涯学習」ですけれども、「ライフステージに応じた」という言葉をよく聞かれるかと思いますが、それぞれの年代に応じた学びの場をたくさん作っていききたいというものです。学びを活かし、社会参加できる場の創出ですが、もっと噛み砕いて言うと、高齢者が生き生きと活躍できる場を設けていききたいということを考えておりました。なかなかすぐには難しいところではありますが、一つ見えてきたところがありまして、小学校の部活動をクラブ化していききたいという話がありました。先日その会議で、舞戸小学校、西海小学校の野球部を来年度から別組織により合同で行いたいという話になりましたが、還暦野球のメンバーがその面倒を見てくれるという話になりました。このような方たちが子ども達と関わり、指導などしてくれれば、自分たちのやりがい、喜びなどを感じてくれるのではないかと思います。このような例が増えていけば良いなと感じておりました。

「2 生涯スポーツ」ですが、スポーツ団体の充実、選手養成を考えていききたいと思えます。また、先程申し上げたように、児童生徒の校外スポーツ活動の支援をしていききたいというところでもあります。

「3 学校・家庭・地域」は重点として、コミュニティ・スクールを核とした地域づくりを進めていききたいと思っておりました。後ほど詳しく説明いたしますが、コミュニティ・スクールの一番の狙いは地域づくりだということを、重点として示していきたい

と考えております。

「4 文化芸術」です。これまでどおり文化団体の支援活動や、文化・芸術に接する機会の充実といったところを何とかしたいなと思っておりました。本物に触れるといったことが大事で、これが子どもから地域社会の人たちの心を動かすことに良いのではないかと考えておりますので、機会を増やしていきたいと考えております。

「5 文化財保護」です。いろいろな文化財がありますので、有形、無形の文化財の伝承を進めていけるような方法を考えてまいります。

そしてこれらが、生きがいに満ちた生活の確保や、ゆとりと潤いに満ちた生活ができるまちづくりといったことに繋げていきたいと考えております。

最後にコミュニティ・スクールについてですが、どういう組織かと理解しにくいところがあるかと思いますが、大きな柱、形を説明しますので、なんとなくでもこういったものかというイメージを持っていただければ助かります。

学校運営協議会制度というのが、コミュニティ・スクールの日本語名称です。学校だけでなく、地域の方たちも一緒になって学校を支え、地域の子も達を育てていきましょうというのが、コミュニティ・スクールの一番の目的です。鱒ヶ沢バージョンとして、3つの小・中学校を一つの学園としてとらえ、一つの学校運営協議会を組織するというイメージであります。

まず学校では、学校を運営するための学校経営基本方針が作られ、これを学校運営協議会の皆さんに説明します。これに対して、学校運営協議会では意見を出して、修正しながら承認をもらい、これを基に学校運営を進めていくというのが、大きなポイントです。学校運営協議会のメンバーとなる人は、地域住民と記載されていますが、よその地区を見てもみると、観光協会、社会福祉協議会、老人クラブ、婦人会といった様々な団体から出してもらおうというのが、一般的であるようです。また、保護者としてPTA会長や、教職員として校長、社会教育委員にも参加してもらいたいなと思っておりました。おおよそ20名程度で組織して、先程説明した学校運営や必要なことを協議して、助言・指導を行っていく。そして、これに対して教育委員会は何をするかということ、調整役のディレクターを立てて、教育委員会の考えと学校運営協議会の動きをうまく繋げて進めていくといったことを考えておりました。これを基に鱒ヶ沢町の地域づくりが活性化できればいいというのが、先程から申し上げているものであります。

コミュニティ・スクールが目指すものは、子どもの教育を学校任せにするのではなく、地域住民が子ども達に積極的に声をかけたり、自ら指導したりして地域住民が学校と共に子どもを育てていく地域の教育力の向上を目指し、そして、学校（子ども）を核とした地域住民の繋がりを深め、活力ある地域コミュニティづくりに繋げることが最終的な目標であります。資料では、学校、学校運営協議会、教育委員会ではどんなことをするかといったことが記載されていますので、後ほど御覧いただければと思います。これらを踏まえて、地域づくりの一つの起爆剤にしていきたいというのが、コミュニティ・ス

クールの狙いであるということを、くどいほど説明させていただきました。

以上、学校教育、社会教育を含めた鱒ヶ沢町の教育の方向性をお話しさせていただきました。

町長

只今、教育長から鱒ヶ沢町教育基本方針について詳しく説明がありましたけれども、委員の皆さん、御意見、御質問等ございませんか？

これは、初めて委員の皆さんに説明したのでしょうか？

教育長

そうです。

教育委員（鶴田）

私が教育委員に就任してから5年になりますが、学力が年々低下しているような気がしています。この学力低下については、学校は年度末に必ず総括しますが、どういうわけで低下しているのか現場で把握して、向上させるために次年度どうするかということがなされているのか気になっています。物事をやれば必ず実行して、チェックして、来年度どうするかといったことがありますので、先生方も全体的に毎年下がっていることを感じてはいるのだろうけど、何が原因で下がっているのかということ把握しないと、改善されないのではないかと。我々学校訪問しますけれども、結果を見てそこまで議論するといったことはありませんので。問題を認識しながら、それを改善するといったことをしないと、思うようにいかないのではないかとこの気持です。

コミュニティ・スクールについては、どこの学校でも評議員を置いて、評議員の中から意見を聞きながらやっているんだろうけれども、もうそろそろ形骸化しているのではないかと気がしないわけでもないで、地域の人を組み込んで、みんなで学校生徒を見守りましょうということがあるのでしょうかから、うまく地域全体で子どもの見守りをやっていけばいいのかなと思っていますけれども、地域住民が内容をよく理解していないとなかなか大変だなという気がします。また、ある程度学校の中のこともわからないと意見も言えないでしょうし、先生方だけでは見方も偏るところがあるので、色々な意見を聞きながらやっていけばいいのかなと思っています。

健康面では、健康ほけん課が父兄を巻き込んで、糖尿病予防など一所懸命取り組んで改善されてきているという良い例もあるので、色々模索しながらやっていただければと思います。

コミュニティ・スクールについては、つかみきれないところもあるので、我々も勉強しながら、また地域の住民にも関心を持っていただくために、住民への周知が必要かなと思っています。

教育長

コミュニティ・スクールは、本当にそのとおりです。なぜこれをやるのか、その意義を皆さんに理解してもらわないといけない。保護者、地域の方たちに、このコミュニテ

ィ・スクールはどういう意義があって、どうして大事なのかということをちゃんと理解してもらおうということが一番大事だと承知しておりました。

町長

鶴田委員からお話があった、学力の低下について、学校ではどのように総括して、どのような指導方法とすべきか対策はやっていますか。

教育長

やっております。教科ごとにどのような問題があるのかチェックして、どのように指導を改善するか文書化しております。ただ、問題としてあるのは、一人ひとりに対応した個別の指導が若干足りないかなど。少人数にして一所懸命やってきたものは、効果が表れ点数にも反映されてきている。実態に合わせた個別の指導がもっとできればというのが、一つの解決策かと思います。

教育委員（鶴田）

具体的にアンケートで、家庭学習の時間についてはどのように推移しているのか。減っているのか、増えていても点数が上がらないのであれば、やり方、課題の出し方とかについても、もっと突っ込んでいかなければという気はします。もっと具体的にやり方を教えていかなければならないのか、それとも家庭学習の時間が足りないのか、毎年のデータを比較すれば数値として表れてきますので、改善すべき点もあるのではないかと。

先生方の教え方についても、どのように総括して、その総括を次年度に活かすようにしていくことも必要ではないかと。

町長

このような話題は、教育委員会の中で話し合われたりしていないのですか。

教育長

あまり突っ込んだ話はないです。

町長

もう少し突っ込んだ方がよいでは。なかなか成果が上がりませんでけはちょっと。

教育長

学校訪問では、校長から話を聞き取りしてやり取りはするのですが。

教育委員（鶴田）

時間がそんなにないので、総論的なことを聞いてそうなのかなど。

町長

中学校の7ポイントという差はあまりにも大きすぎる。

教育委員（鶴田）

年々下がってきている気がする。つがる市とそんなに変わらなかったように記憶しているが。

教育長

つがる市では、教育委員長から学校に対して、厳しい教官のように強い指導もあった

ようですが、反発と共感とあったそうです。その後一番効果があったのは、外部から講師を招いて授業の方法等について、盛んに研修を行ったそうです。

教育委員（鶴田）

先生は自分一人だから独りよがりのところもあるので、他の先生に見てもらおうというのも一つの方法かもしれない。

教育長

それを考えると、我々も外部から講師を招いて研修を行おうかなと考えておりました。

教育委員（工藤）

まっさらな子どもが、勉強を教えてもらったときに、みんな同じに伸びるかと言えばそうではないですね。伸びないのは土台がそうなのか、あるいは学力を重視するような家庭環境にあるのか、といった理由はあるかと思います。例えば小学1年から6年までの6年間で、成長期のようにぐんと伸びるときと、伸び悩むときがあるのだとしたら、このときに担任が変わるとその子個人をどの程度把握しているかによって、成績も違ってくだろうし、先生と子どもの信頼関係にも影響すると思います。人づくりと簡単には言いますが、心と心の疎通が無いとついてこない。先生との出会いで、どんと伸びる子もあると思います。鱒ヶ沢町の教育は、長い目でその子の成長を見ていくものであってほしいなと思います。平均点も大事ですが、個人がいかに楽しく学校生活を過ごして、どれだけ人間的に大きくなって、学力もどれだけ伸びたのか、トータルで見てあげたいなど。人と比べると下の子でも伸びたとしたら、花丸をあげたい気持ちです。幼稚園、小学校、中学校とあるわけですから、子どもの性格などが幼稚園から小学校にあがったときに引継がれるような環境にしてほしいなと思います。

町長

どこで伸びるかわからないので、個性を伸ばす教育ということだと思いますが、きめ細やかに出来るかとなると、なかなか難しいところもあるかと思います。そういったところは、地域の人たちの力を借りながら、ということ。

教育委員（工藤）

難しいところですが、そこが目指すところかなと自分では思っております。

教育長

先程おっしゃったとおり、家庭というのは大事な環境だと思います。10時にならないと登校しない子どももいて、親ともお話ししてはいますが、親自身がきちんとした生活ができていないため、当然子どもの責任ではないのですが、私たちはそこをどうやってフォローし、家庭環境を整えながら子ども達を迎え入れるのも、我々の大事な仕事であると思っております。いい環境では力のある子は自分で伸びることができるので、まず、土台の家庭をしっかりとしなければと思います。

個別の対応については、90、100点取っている子からすると下ですが、いつも30点の子が50点とったらすごいなと褒めてやるべきで、個々の伸びというものにも目

をかけてやるように、先生方にも伝えたいなと思いました。

教育委員（工藤）

コミュニティ・スクールでは、学校の方針の中で、地域の人々の活用だとか、間に入る人との疎通を取りながらのことになってくると思うのですが、これはあくまで学校が主体ですか。そうではなく、役割をもっているコミュニティの人たちを交えた話し合いの中から生まれるものですか。

教育長

コミュニティ・スクールの一番の核になるのはもちろん学校です。いままで評議員はアドバイスするだけでしたが、協議会ではアドバイスだけではなくて、自分たちでもやるということです。例えば餅つき大会をやりたくなれば、もち米どうする、きね、うすはどうする、といった具体的に動くのも協議会の役割です。

教育委員（工藤）

昔はそれがなくても地域の人がいっぱい集まって役割分担したり、おばあちゃんたちが主体になってみたりといったことがあったように思うのですが、これが合併によるものなのか、そのまえからなのか少なくなっているのですが、これは価値がなくなったということでしょうか。それとも時間が取れなくなってしまったのでしょうか。

教育長

いま、餅つき大会を例にとってお話ししていますが、理由はどちらもあります。学校が非常に忙しくなったということもありますし、自分の地域から学校が見えなくなって、物理的な距離が心の距離とでもいうのか、学校との関係が希薄になった。価値はあるのだけれども、なかなか達成できないというのはこういった理由からです。コミュニティ・スクールをやるというのは、学校と関係ないと思っている人達を、まだまだ関係あるので協力してくださいという、そういう組織をコミュニティ・スクールと置いていただければと思います。

町長

私からお願いですが、こういったコミュニティ・スクールの件も含めて、教育委員会のほうでもう少し事前に話題として取り上げて、委員の皆さんで様々協議していただきたいと思ったり、いろんな情報を委員の皆さんに随時提供していただいて、様々協議していただきたいと思ったり。

部活動についても学校の先生だけでは厳しいということにもなりますし、先生方の勤務時間も話題になっているので。

教育委員（鶴田）

来年度から県教委で、指導員をどうのこうのという話もあったと思いますが、対象の市町村はもう決まっているのですか。

教育長

おそらく決まっていると思います。必ず配置されるものではないのですが、今年の希

望アンケートでは、鯨中はいらないと回答している。

教育委員（鶴田）

かたや引率などの時の責任はどうなるのか、といった問題もあるのだろうけれども。もし指導員が配置されれば、何かしらの補償をしてくれるわけだから、教員の多忙化をいくらかでも良くなるのではと。

町長

他に無いようですので、鯨ヶ沢町の教育についてはこれで終わりたいと思います。次にこういった機会ですので、皆さんから御意見、話題の提供等があれば。

（2）その他

教育長

何も無ければ教育委員会事務局から、部活の件に絡めて話題にしたいことがあります。

教育課長

小学生のスポーツ活動について、今どのような状況なのか情報提供いたします。

現状と課題として、児童数の減少や教員の多忙化等により、学校部活動の継続が困難な状況になっております。そのため、学校では部活動を取りやめて、地域のクラブ化へ移行していきたいということでありまして、町としては、その受け皿となりうる新たなクラブができるのかどうか。また、既にあるクラブでも、安定的な運営ができるように何かしらの支援をする必要があるのではないかということで、包括的な仕組みづくりが求められているというのが現状と課題です。

最近の動きとしまして、西海小学校との話し合いが今年の12月にありました。現在卓球部と野球部の2つがあるそうですが、31年度からはこの2つの部活を無くしたいということ考えているそうです。卓球部については、学校の中に卓球協会の方もおり、お話を進めていく中で、卓球協会が受け皿になっていけるような話がついているそうです。野球部については、30年度から舞戸小学校と西海小学校が合同でクラブ活動を行っているという状況もありまして、31年度からは、保護者を中心にクラブを立ち上げるようなお話をしており、町には指導者の確保や、色々な面でアドバイスをいただけないかというお話が来ている状況であります。ということで、西海小学校では、来年度から部活動が無くなるという動きであります。

舞戸小学校とは1月の末に話し合いを持っております。現在、相撲部、野球部、陸上部、卓球部、三味線部の5つの部活動があるのですが、舞戸小学校でもやはり部活動の継続は困難とういこともあり、順次新規の会員募集を停止しながら、部活動の縮小化を図って、概ね3年後には地域クラブ化へ完全移行したいという考えであります。

これらの流れを受けまして、町体協の鎌田会長とも1月の末にお話しをした経緯があります。やはりなんとか地域として、何かしらの方策を打ち出さなければならないということで、内々で協議を進めているところで、再度地域クラブ化へ向けたアプローチの

仕方、どのような支援をしていけば良いかなど、教育委員会と体協を含めた関係がどうあればよいかということで、協議しているところであります。その中で、いずれにしても現状はどうなのかということで、色々な団体から声を聴くことも必要だということで、小学生のスポーツ活動に関する意見交換会を2月14日に開催しております。参集範囲は、体協会長、体協加盟団体、既に地域クラブを立ち上げている団体の皆さん、そして学校のクラブ活動をしている顧問の先生方、総勢20～30人の人数で意見を出し合っ、現状を理解してもらい、学校の部活動の移行、その受け皿となるクラブ化へについても何かしら手を打たなければならないという認識の共有が出来たと思っております。それをどう組み立てていくかについては、私たちの宿題になっております。

この意見交換の中での要望等として、学校の授業が終わった後にそれぞれ練習場所が点在しているので、そこまで移動する手段、練習場所の確保ということで、現在も各クラブ等がそれぞれの場所で練習等をしているが満足に使える状況でないことから、クラブ化がますます進めばそういう環境を整備していただきたいという声もあります。また、地域クラブ運営に対する町としての支援といたしまして、これは行きつく先はお金ということになるのでしょうかけれども、指導者の確保であったり、遠征に係るバスの手配だとか、そういった声もありました。実際、指導者の確保となると、どの競技も抱えている大きな問題ですが、仕事を抱え時間帯も遅くなってってしまう、また、先生方も大変だということで、いろいろな声は出しましたが、町としても仕組みをつくりながら、支援策も考えていかなければならないのかなと思っておりますので、ある程度形が見えてきましたら、改めて町長の方へお願いすることもあろうかと思っております。今回はこのようにきっかけはつくりましたので、またアンケート等を実施しながら整理して情報収集に努めることとしております。

教育委員（鶴田）

クラブにすればそこに通う子ども達がいづらか負担することも考えていかないと、なかなかもたないように思います。ただ、父兄の方がどういう反応するか。クラブ化にすれば、受益者負担ということをやっていかなければできないことですから。練習場所も小学校の体育館も貸出しできる時間はあるのかなと思います。ただその前に、喫煙等についてしっかり注意しておかないと、事故が起きたら大変なので。こういったことをすりあわせしながらやって行けばいいと思います。

町長

今日は、様々御意見をいただきありがとうございました。皆さんからいただいた御意見、考え方等を十分踏まえたうえで、これから取り組んでまいりたいと思います。委員の皆さん大変御苦勞様でした。

それでは、総務課へ進行をお返しします。

4 閉会

総務課副参事

それでは、以上をもちまして鱈ヶ沢町総合教育会議を終了いたします。誠にお疲れ様でした。

(14:30会議終了)